

1. ところで、キリストは死者の中から復活された、と宣べ伝えられているのなら、どうして、あなたがたの中に、死者の復活はない、と言っている人がいるのですか。(15:12)
 - a. 先週は福音の基本的要素について学んだ。聖書の示すとおりにキリストは死なれ、葬られ、三日目によみがえられた(15:3-4)。
 - b. イエス・キリストが三日目によみがえられたのはただの霊的現象ではなく、実際の肉体を伴うよみがえりであった。そしてこれは、いつの日か私たちもよみがえりのからだを持つようになる、というキリストに信仰を置くすべての人の希望になる。
 - c. 死者の復活はないと主張する立場の人たちが何を信じていたかは正確にはわからない。また復活はすでに起こったのだと教えているグループもいた(2テモテ 2:17-18)。これらのグループに共通していたのは、この世で良い暮らしができればいいじゃないか、という考えを持っていた、ということである。
 - d. しかしパウロは「もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。(19節)」と宣言している。この世では良い人生を送ってはいけないとか、この世では惨めに生きるよう努めないといけない、とかいうことではなく、私たちが最終的な希望を置くところはこの世ではない、ということである。

2. もし、死者の復活がないのなら、キリストも復活されなかったでしょう。そして、キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになります。それどころか、私たちは神について偽証をした者ということになります。なぜなら、もしもかりに、死者の復活はないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかったはずですが、私たちは神がキリストをよみがえらせた、と言って神に逆らう証言をしたからです。もし、死者がよみがえらないのなら、キリストもよみがえらなかつたでしょう。そして、もしキリストがよみがえらなかつたのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお、自分の罪の中にいるのです。そうだったら、キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったのです。もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。(15:13-19)
 - a. 究極的には私たちの希望は、人生はこの世だけで終わるものではない、という理解の上に置かれるべきである。イエスが死からよみがえったのと同様、私たちもいつの日か復活のからだを持つ。
 - i. 私たちのいのちは、今が終わった後も存続する。(サドカイ派はこれを信じていた)
 - ii. 私たちの存在は肉体を離脱して霊的なものになる。
 - b. パウロは、復活がないのなら私たちの信仰も実質のないものになると言っている。それは無益で無価値で無意味なものとなる。そうだとするとクリスチャンであれば少なくとも良い人間だという考えとは合わない。
 - c. もしキリストがよみがえらなかつたのなら私たちは今もなお罪の中にいる。私たちはそれに気付いていないだけである。
 - d. もし復活がなく私たちの信仰が実質のないものなら、私たちは神について偽証をする者になるので、良い人間とは言えない。もし私たちが神について偽証をしているのなら私たちにとってひどい攻撃である。
 - e. 私たちは神にいのちをささげ、その過程には犠牲を伴う。私たちが犠牲をささげる対象が、私たちが本当に礼拝しているお方(物)である。もしも死んだ神に対して犠牲をささげているのなら私たちも滅んでしまう。
 - f. しかし私たちの希望はそういうものではない。私たちの希望は復活にある。いつの日か神はご計画を完成させる。いつの日か新天新地ができる。私たちはイエスがそれを統治するのを見ることになる。そしてそれはや死のとげに脅かされることはない。